

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（5・下）

——高蘭姫さんへのインタビュー記録——

藤永壯／高正子／伊地知紀子／鄭雅英／皇甫佳英／
高村竜平／村上尚子／福本拓／塚原理夢

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (5) —Part II—
—An Interview with KOH Ranhee—

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung,
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko,
FUKUMOTO Taku, TSUKAHARA Rimu

日本での生活

《組織への加入と結婚》

高：そうやって私は日本に来て、それから私は日本での生活になります。私は17の時に外^{ウエ}三寸^{サムチョン}とこに、叔父さんとこに引き取られたけれど、その時に私が日本に来てみたら、朝総連*¹¹という団体がありましたわ。そこにも青年部がありましたわ。その青年部に、私また入りました。そしたら、その時は天満に本部がありましたわ。朝総連の本部、青年部もみんな。そのとき私がね、字が分かってると、韓国語が分かってる、いうことで、いっぺんに組織部長にさしはったわ。その重大な任務をずうっとやって。それであちこち行って。お婆ちゃんたち、韓国語分かれへんの。そのときは字分かれへんかったら、^(ママ)メクラと一緒にやん。それを私は分会ごとに回りながら。韓国語を教えて。

そういう活動やりながら、私は20歳で結婚しました。20歳で結婚する時は、その、且

那も、日本に来てましたわね。その、旦那になる人が文道平博士〔大阪経済法科大元教授〕ですわね。その時にたまたま友だちが見合いさしたのが。

私いつも言うねんよ、ほんまにな、金ない、名誉ない、兄弟も何もない、そういう人間にまた、めぐり逢うたんよ。でもなんでその時に、何もないこの文先生と結婚したか。まず私は将来、学者になる人が好きやねん。自分が勉強して、ちょっとでも分かってるから、無学だとか勉強してないというのは、私は嫌やねん。主人はあの時、朝鮮学校の高校の先生やってましたわ。民族教育のね。西今里中学*12って知ってるかね？

——今は中大阪〔中大阪朝鮮初中級学校〕ですね。

高：中大阪や。そこで先生やってましたわ。先生やってるし、私は朝青〔朝鮮青年同盟〕であれ〔活動〕やってたから、中之島公会堂で結婚式挙げたよ。中之島である時に何で結婚式挙げたと思う？ カレーライス。それがすごい人なの。青年たちがものすごかった。貧乏はやっててもな、自分のやることはしっかりやってたから、名誉だけはちゃんとあった。

——それはいつ？

高：私の20歳。相手が28歳。

——文道平先生は、どこが故郷になるんですか？

高：あの人はね、大静面、大静面。そこの東日里という村がある。あの人の歴史もすごいよ。お父さん虐殺されて、弟が3人虐殺されて。そういう身の上の境遇が一緒やから結婚したということですね、まずは。そんな境遇の人が、お金もないし、家もなかったのよ。田島の親戚の家におって、〔大阪〕工業大学に行ってたわ。年いっても学生。勉強、勉強だけはすごかったね、あの人の勉強のことは。ほんで結婚式、そないして挙げて。西成で長男が生まれて。それからここに来てから、ダーッと子どもが6人生まれて。いまだこの家です。

《母の弟、李起杓》

——結婚される前は、住んでたのは、どちらなんですか？

高：あ、結婚する前？ あの人は田島におったみたい。私は巽。今で言うたら巽。

——それが、お母さんの弟さんを頼って。

高：そうそう。あの人は帰国せんと、ずっとここにおった人やから。植民地時代からおった人や。錠前工場いうてね、なんか鍵つくってた。大きな工場やってたから、なかなか始末でけへんから、後で来る言うてたんが、来てないねん。そのまま。その時はな、^{ミン}民戦^{ジョン} [在日朝鮮統一民主戦線] 時代やから、今の韓徳洙と私の外三寸^{ウエサムチヨン} [母方の叔父]、^{イギビョ}李起杓^{*13}とか、権力争いでどちらが正しいかいうことで、やってた時やな。それが^{かんとくしゆ}韓徳洙が勝って、あの人^{かん}が議長^{しん}になったんや。それからうちの叔父さんは政治から手を引いた。もうこんなあれには、ついていかれへんと。あの人^{かん}は賢いねんな。北朝鮮を信じて、^{きんにっせい}金日成からずうっとアレやって。でも心は変わってないよ。そういう役からは、一線には立たへんかった。でも分会でとかは、みんなやって、私は叔父さんの影響受けるもん。大きくはな。

——その叔父さんの名前が^{イギビョ}李起杓なんですか？

高：^{イギビョ}李起杓。あの叔父さんも有名な人ですよ。韓国におった時にもね、政治犯でどんだけ捕まって。この人がすごい偉い人でした。^{かんとくしゆ}韓徳洙と同じレベルの人やった。この家におって。それがもう日帝時代にこの人も捕まって、ソウルで刑務所、何年生活したかね、何年やってぼろぼろになって日本に逃げてきて、ここでずっとそれから住んでる人です。こんな有名な叔父さんの影響を受けたので、私ら日本におって政治に携わってると思いますわ。

《マトメの元請けをする》

高：それからお父さんが亡くなって。日本でずっと、西成で4、5年住んでて。主人は学生でしたし、アルバイトみたいにカバンを売ってたね。学生みたいなカバンあるでしょ、黒で皮で。そのカバンこしらえてるところが主人の村の人で、西成でカバン工場つくってた人やねん。スクリーンバンドと、カバン作ってた人やねん。うちの主人はそこから委託して、自分で持って神戸の三宮の駅で、下ろして。それで私は道端でカバンも売ったことある。警察学校訪問して、警察学校でそのカバンを売って、すごいあの当時のお金で儲けてんね。儲けて主人の月謝。それで卒業できてんねん。3年間、月謝払うてなかったらしいねん。

——大阪工大のですか？

高：工大の、主人の。私と結婚してカバン屋やって儲けたので、月謝払うて卒業してん。卒業して、生活やってたんやで。それがね、子どもを教育やりながら、主人が40歳のと

きにどう言うたか、ちょつとな、相談があるって言うの、私を呼んで。僕は、この家をなくしてまででも、おまえ、耐えられるか？ 何するの？ 家なくすって、どう言うことやのん？ 何やの？ 聞いたら、自分を学者につくってくれへんかって、こう言うのよねえ。もう私、呆れたけど、まあ、やってみな、て承諾した。そして10年間頑張って、電子工学博士取りました。

——仕事はせずに勉強をずうっと？

高：仕事は今から言いますね。わたしはどこも働きに行ってません。マトメ、というのがありました。戦後ずっと、内職みたいな。普通は内職でマトメをやるんだけど、私はすごい、ある大きな、サカモトいう人ですけどね、社長が。それと、いところが婦人服の縫製やってたもんやから、両方の仕事を取ったの。

この袖とかまつるのがマトメって言うのよ、わかる？ 袖付けやるのね、洋服の男物紳士の。襟のところホシって入れるねん、ええ物は、襟の裏とか。そしてボタン留め。前二つ、袖は三つ。それをバァーと持って来るねん。車で横付けして降ろして、もういっぺんで100枚、200枚降ろしたら、子どもはあの時、みんな高校や中学になってた。4時くらいに帰ってきたら、それを配達さすの。いっぱいあちこちに、それこそ内職する人がおるねん。日本の人でも、韓国の人でも、待ってはんねん。私とこから5枚や10枚や20枚持って行ったら、その仕事して、できたやつを持って帰ってきたら、私が問屋に納めるねん。そういう大きなこと、やんねん。

主人がそのボタン付け、どんだけ上手やったと思う？〈一同：笑〉 ボタン付けだけ、さすねん、主人に。仕込んだん。そしたら主人の友だちが来て、私に言うことが、^{アジマン}아지맘、いうたら「奥さん」いうことね、よくこんだけ仕込んだねって。その仕事ずっとやった。

《夫の家族》

高：さっき言うて飛んでるけど、主人のほうも3人虐殺されて。お義母^{かあ}さんも連れてかれて、拷問受けて。足の膝ね、こっちが曲がってる。言うたら分かる？ これが後ろ向けになるねん、拷問受けて。それでも、辛うじてお義母^{かあ}さんだけが生きて。お義母^{かあ}さんも密航して来て、九州やったかな、あのとき捕まった。捕まって、私らが一生懸命働いてる時にね。

その時、主人がなんや、教員免許を日本政府からもらってたみたいやな。西今里中学いうて、なってる時でも、日本の給料もらってるのん、うちの主人だけやってん。どう

いうの？ 政府からお金もらってる、うか、給料出るの。ほかの朝鮮学校の先生は、給料あたらへんねん。なぜ言うたら、父兄がお金出さへんもん、ないもん。月謝いうたって、知れてるもん。その給料を全部、分けてあげててん。そんな生活やった。

その時に、ただ主人がエライさんやったから、[密航してきた義母の釈放をもとめる]嘆願書つくりましたね。わたしら近所に全部、嘆願書こしらえて判もらって、その嘆願書添えて、主人が教員免許あるから、いうて入国管理局に行ったね、九州に。行ったら、そこでどない？ 一発で釈放されたんや。その時にね、密航者が4、50人乗ってたみたいやで。

——大村収容所^{*14}ですね？

高：大村収容所やな、50人くらいが来てたって。

——いつごろのことですか？

高：ええと、結婚して、私が子どもが6人まで、できててんやから。一人最後の子は、お祖母さんが来て、産め、産め、言うから産んだだけや〈一同：爆笑〉。その記憶もあんなねん。せやから、その間のことや¹⁾。主人が行って、すぐに釈放されて、お金も用意して持っていったら、お金いらないうて。

船に乗る時でも、溺れかかっている時でもね、お義母^{かあ}さんが言うてた。ウチはもう死んでもええと思うてるけど、他の人はものすごく頼んでた、助けてくれって。ほんで指さして言うんやて。あんたが乗ったために、この船、溺れるん違うかって。あんたには魂がいっぱい乗ってるやんかって、旦那も子どもも。そういう言葉、暴言を吐かれて。あんたは日本に行っても、迎えに来てくれる人もおらんで。息子も貧乏で、乞食みたいな生活してるからって。そのお義母^{かあ}さんが一番に釈放されたから、みなはびっくり仰天。どないして出したんや言うて、金持ちから電話が殺到した。

そんだけね、歴史がすごい深いよ、もう、うちの家は。その虐殺された弟3人。二人はこれはパルチサン。一人は何にも分からない14歳、それがね、生きたまま井戸に突っ込まれて、頭から、生き死に、そんなことできるう?! それ^{ササムトウジエン}が4・3闘争の悲惨なところなのよっ！（机をたたきながら）罪のない人殺したり、罪のない人間を井戸^ほに放って。

1) 後日、高蘭姫さんに再確認したところによると、第4子までは文道平氏の母が渡日する前に出産しており、第5子以降がその後に生まれたと言う。第4子と第5子の年齢を考えると、文道平氏の母が渡日したのは、調査時点からおおよそ44～48年前（1959～63年ごろ）の間であったと思われる。

子どもやで、14歳いうたらっ！ だから主人も愛国心に燃えて、最後の最後まで。北朝鮮にも行って。2階に行ったら、みなありますわ。それがうちの夫婦の絆、愛国心に燃えてる、今もこういうこと、やってるといことですわ。

で、やって、50になって主人がドクター取って。その時は息子らは朝鮮大学の学生で、東京行って、いてなかった。子供はまだ、娘5人はみな幼かった。お父さんがドクター取ったっていうことの感激、感動は、ほんとうにウチしか味わわれへんで。ウチ、ほんまにな、今になって思うのやんか。なんで親も兄弟もいてないのって。子供？ 大学行ってるやつ呼んだら、来るお金、帰るお金、交通費考えたら、呼ばれへんかった。今やったら呼べんのに、なあ。ただ今言うてるその叔父さん [李起杓氏]、お母さんの弟、その叔父さんだけ呼んで。あとで一緒に行って、あとで3人で食事しながら、褒めてくれたのは、その叔父さんだけ。その叔父さんも3、4年前に亡くなったわ。92歳でね。

《頼母子と朝銀婦人会》

——前、聞いた時にね、マトメ以外にも頼母子^{*15}もやってたと言ってたでしょ。あの話もちよっと聞きたいんですけど。戦後、日本で生活している時の話を聞きたいと思って。
高：あのね、在日朝鮮人の中で、お金が100万いる、200万いると、銀行行っても貸してくれへん、日本の銀行は絶対に貸してくれへん。朝銀^{*16}も結成されてあったけれど、50年で潰れたけれど、街の人の生活資金、結婚資金とか、家を買う時とか、そういう時いるじゃないですか、大きなお金が。最低でも100万の金が。

それをね、私が頼母子の親をやっていたの。それも10年ぐらいやったかね。それも信用でね。信用のいい人、自信のある人でないと親できないの。と言うのは、子がね、33人、35人集めな、あかんねん。3万円の一口にそれだけ集めやんと、100万の資金になれへんねん。下ろす人が利子出して4万出していく。下ろさない人はそれを置いて、重なって一番利子つくから。それが楽しみで出すの。これは助け合いの一番のポイント。

——どんな仕組みです？ 女史^{ヨシ}ニムに前聞いた時、この頼母子を何個も持ってたって。

高：と言うのは、今言うように、ウチが一口に33人集めるねん。私は三口ぐらiyorわな。お金を貯金するところは、これしかないねん。利子で儲かるし、入る人も得、使う人は助けられて得、そういう両方の面でメリットがあるのよ。

そら、何もないと入れへんよ。私は5万 [円] 口もやる。5万口は金持ちばかりでお金の余裕のある人。そういう時は、結婚式挙げる時なんか、200万ぐらいバーンと欲しいやんか。そんな人だけでやって。これは10年ぐらいで、いっぺんでね。5口ぐらい

やるのね。

1万円口も、3万円口も、5万円口もある。1万円のもあるんやで。ほんまに小遣いだけで、大きならしたいな [大きくしたいな]、いうやつ。それをやることで、私は次から次と、入学金も払えるし、家も買えたり、結婚式もできたし、そんな大きなメリットがあんねん。

それをやって、今度は朝鮮銀行 [朝銀信用組合] が設立やった時に、5年ぐらいなっからからはね、朝銀の人はね、家まで来てくれるのん。銀行まで行くことは本当に少ないの。その時にね、朝鮮の人でも、日本の人でも一緒やけど、半分は女性やないのって。男性ばかり相手して銀行をやろうと思ったら、間違ってるって。もっと小口を集めるのにな、利用するのが女性、違うかって。それを言うたがために、[婦人会の] 会長、朝銀潰れるまで会長や。巽から林寺から、あるところ全部、布施からどこから、銀行が15ぐらいあったん違うかな、支店が。

その中で、鶴橋支店で私が婦人会の会長になったわけ。副会長二人、幹事5、6人置いて。大きな会や、すごい。婦人会言うたら、有名や。何でいうたら、貯金もできるし、旅行も年に2回ぐらい連れて行くし、忘年会、新年会はご馳走出すし。やっぱり相手がお金あるだけに、メリットが大きいねん。そこで会長ずうっとやって、解散するまで知らん人おらんぐらいに、おもに有名に活動したよ。そういう時に、頼母子はやめてくれと言われたよ、確かに。頼母子をやることによって、銀行に持っていくお金が少なくなるって。それで私はやめた。婦人会を結成したら、貯金、銀行に行かなあかんやん。それでも何年かは、やったけどな（笑）。隠れて何年かは。

——頼母子の「子ども」に逃げられたことはないんですか？

——絶対あるんですよ。弁償せなあかんよ。そのリスクも負えるから親になれる。

高：たとえばここに6人、7人おっても、払える時は払えても、あんたが倒産した、と。

よう払わんねん。親に4万円持^けって来えへん。逃げよんねん。あの当時は、みな、夜逃げしよんねん。子はあきらめる。ほな私がみな、立て替えて払わなあかん。

——そのお金ね、その日 [頼母子のメンバーが集まる日] に集めて、すぐに渡すんですか？

高：いやいや、先に持って来る人もあるし、後で持って来る人もあるし。それを立て替えるのも親の責任や。15日には支払わなあかん、と。それが18日に持って来る、言うたら、どうすんの？ その3日分のことは、私が立て替えて、払わなあかんねん。親というのは、すごい信用のある人しかできないの。いざっていう場合は、家売ってでも出すと

か。

——それを信じないと、子は入らへんねん。

高：そういうことをやって、私は生活の足しに、ものすごくなったし。大きいし、リスクも大きいけど。まあ最後、10年や15年の後やから、儲けたと言え、それまでやけど、結局は儲けた分を吐き出したということになるわ。景気が悪くなってきたら、逃げるの人が多いねん。……そうそう、親が逃げる時もある。

親が逃げる人が多いねん。と言うのは、私がみな使^つうといてやで、この人に払った、この人に払った、と言うたら、子は分からへんねん。たとえば私が親やったら。私は騙されないように、ちゃんとサインしてもろうとった。頼母子渡す時は、前は誰それがなんぼ払っていったからと全部、見せる。字が分かってるだけに。でも字が分からん人が多いやん、悲しいことに、韓国のおばちゃんたちは。学校行ってないから、しゃあないやん。そういうことで私は長いこと続けたし、5口も6口もできんねん。信用しはるから。空口からくち [集めた金の受取人がいない回を指す] ないやん。みんな下ろしてった順番に書いてるから。

私の頼母子が減びたのは、みんな逃げられたから、子に。それで最後は、もうできませんって。それで対策練ったわけやねん。みなさんって、帳面見せて、誰それいてるか？ いてない。あの人、逃げたわっていう噂があるわな。近所で分かるやん。逃げたのが、私とこで頼母子下ろしていった人。すると私はね、あなたが5万円出してくれた、5回来た。それで逃げられたら、本当は10万円払わなあかん。利子1万ずつ付いてるから。でもね皆さん、ごめんねって。私が悪いんでもないんやでって。誰それが逃げたために、もらわれへんで。元金ももらわれへんやろ、その人、100 [万円] も支払ったのに。で、どうすんの？ あんたに5万円もろうたね？ だから私は元金だけ払うって。そのかわり利子はまけて下さいって。最後にそうやって解決した。なんぼ考えても、利息までは払おうと、弁償することはできなかつたわ。最後はその手があったわ。その手は教えてもろうて、先輩にな。そうやったわ。

——最後は何年ぐらい前やったんですか？

高：最後？ そらあ、もう20年ぐらい前や。そんな長いこと続かれへん。バブルの前に、みな、そういうお金もな。真面目やし、そういうお金の助け合いがあって [成り立っていたが]、景気よくなったら、いらんがな。銀行も貸しよったがな。だから廃止！

済州再訪とその後

《夫の死と高家一門との縁》

——^{チェジュド}済州島に50年ぶりですか、行ったわけですね？ その時は個人的に行ったんですか？ それとも、ほかの方と一緒に？

高：個人的に。うちの主人は、言うたように共和国〔朝鮮民主主義人民共和国〕一辺倒やんか。で、6月15日〔2000年の南北共同宣言発表〕すんだから行きや、言うても、行けへんねん。徹底して共和国支持して、最後まで自分は韓国によろ行かんで亡くなりはってん。あんな人もいてないで。

（写真を見つつ）これはね、本の出版記念の時、古希の祝いかな。私、人生50年夫婦やって、もう間もなく死ぬわ、いうのん、分かってんねんなあ。朝鮮の^{ホサン}豆上*17ですねん。主人もホサンつくってあったから、おまえもホサン着えやあ、僕もホサン着るからって。間もなく自分が死ぬ、いうこと、分かってたみたいやねえ。死んでいく時に着ていく服を、僕も着るからお前も着、言うて金婚式にやって。何カ月後にこの世を去りました。

——おいくつのとき亡くなったんですか？

高：えっと、79歳です、数えで。ちょうど2001年の2月14日に亡くなりました。主人は定年退職70やった。今ちょうど主人が亡くなって、2001年やから7年目ですね。5年間はよう泣きましたけど、今はもう涙も枯れ果てた。もうこれでいいわと思ってね。自分の人生、これでやり直さなあかんわ、いうて、立ち上がったところですねん。それが今度は、自分の行くところは、故郷が見たかった。

そら、^{イドック}李徳九さんと^{キムデジン}金大珍にね、二度とお前は^{さいしゅうとう}済州島に来られへんぞ、と。お前は^ト逃避者やと、逃避者がどないしたら自分の祖国に来れるか、と言われて、レット付けたけど、やっと来る日が来たね。6月15日の、あの^{きんたいちゅう きんしょうにち}金大中と金正日の握手で解放されたやん。で、総連も緩めたんや。それで私は行った。行ってお母さんも会って、お父さんの墓に行って、な、報告して。そうやって、私の人生が今日ですわ。もうこれから、行くようになってからは、5、6回行ってますねん。と言うのは、今から2年前は、私は今度、高家でしょ、^コ高の先祖の墓をね、いま^{チェジュド}済州島の市に^{ワンウイジョン}王位殿*18言うてね、ちゃんとできてますわ。すごい大きくやって。

私は今のところは女性同盟〔在日本朝鮮民主女性同盟〕やし、総連一筋やったけど、

考え方、変えました。南朝鮮も自分の祖国やないのって。何で片っぼだけをね、一生懸命にどうしよう、こうしようなんて。それから私がすることって、何かあるんやないかと。同じ南北統一トンイルしよう思うたら、自分が何をなすべきかと。何か小さいことでもね、あったらやりたいなど、いうところに。

私のお母さんが100歳で亡くなった時に、私が済州島さいしゅうとうに行ったのね。見舞いに行った、お葬式に行った、一周忌に行った。3回行って間に、[出会ったのが]済州島の市長さん[第19代済州市長コミンスの高玫洙氏。在任期間1995～98年]。市長になったのが、私の八寸バルチョン[8親等]のいとこやったの。「日本に行ったら、姉さん、探しに[尋ねて]行ってもいい?」って。「いつくるの? おいで」言うて。言うただけのことやのに、たまたま、この人が2年前に、こういう事業[王位殿建設の募金事業]をやるから、日本へ来てな、「一緒に通訳してくれへん?」言いに来たんやね。大金持ちで、みんな財閥の人ばかり集めて。その人ら集めて、この玫洙ミンスいう人が、全然日本語分からへん。ほんでこの、日本にいる民団の財閥は全然、韓国語分からへん。そこではじめて、お姉さん悪いけど、通訳お願いできるかって、こうなったわけよ。その時に通訳したん。

そうやって、いまだに行ったり来たりしてる。来年4月8日にその王位殿ワンウイジョンのお祭りがあります。毎年4月8日です。それが今年、行かれへんで。来年は4月8日、絶対行きます。それが私のね、今度、生き甲斐やな。

《共和国について》

—— [4・3事件や当時のことについて] 今なら話してもいいって思われたきっかけは?

高: きっかけは[2000年]6月の15日の南北共同声明。私な、これで統一、半分なった、と。私、行儀悪いけど、このテーブルの上に座ってテレビ見ながら、どんだけ泣いたと思う? 嬉しくって。こんな拉致の問題が発覚するのん、予想もしてません、ほんまに。なんで拉致していったん? うち、今、北朝鮮に代表で行ったら、それ言いたいわ! あんたら何やってんねん、早よ返してやれやあって。横田めぐみのお母さんが泣く時は、一緒に泣いてるよ。帰国した[帰還事業^{*19}で共和国に渡った]日本人妻もおったやないの。日本語を教えるために連れて行った? え? そんなんじゃないやろ、14歳、15歳。

私はね、闘争したことがあるから、気持ちが分かるのよ。うちの主人の弟でも14歳でな、井戸に放りこまれて死んだ。行ったら墓参りもみんなやって来てるけど。それがあから私はね、北に対してね、批判もしてんねん。何をやってんのって。人民は飢え死にしてるというねん!(激昂) この六者会談もずっと見てる。これは何で成立せえへ

んねん。助けてもらえ、いうねんやん。私はそう思うてます。誰が来ても私は言う、言いたいことは言う。

そら、主人がね、一生懸命にやって、あんだけの待遇を受けた。私も行ってきました、銀行の代表で。どんな、ほんまにええ待遇受けて帰ってきたか。格好ええねん。ええ人間ばかり連れて行って、ええ待遇して、末端の人間は食わしてない、いうことや。私はそれが言いたい。核の問題に関しては、持つことが悪いとは思ってない。あのテポドンを撃った途端、核を持たへんかったら、もっといじめられてたよ、世界から。使わへんかったら、ええねんやろ。持ってるというだけでも、私は一つは誇りとしてる。そのぐらいの能力あったんか、と。その核をつくるために人民らがお腹を空かした。みな、でけんかった [できなかった]、いうのはあるやろうけど、それもほどほどにせな。人民をただ食わすだけでも食わしてって言うねんやん。餓死して死んでんのん、あれ発表してへんだけやで。水害に遭^おうて何して、ぎょうさん死んでんねんで。これが国のやる政策ですかって、私は言いたいねん。

うちは南朝鮮に行ってるから、南朝鮮だけ応援して、自分が今まで愛してきた共和国をアレしてるんやないよ。主体思想^{チュチュエササン}どんだけ勉強したと思う？ ほかの考え方もあるということや。それというのは、やってることが、なってるからや。何にも言えへん、私。国民にお腹いっぱい、飯だけ食べさせてやって、いうねん。私は今日、あんたたちにこの言葉は言っはいけない人だと思ふけれど、言わざるを得ないから言ってる。

愛国者がどんだけ死んでいってると思ふのん、今？ もう年齢が来てるから、一世の^{アゴジ}お父さんや^{オモニ}お母さんが。そのたんびに葬式行ってる。ほんまに悲しいわあ。もうちょっと生きられへんのかって私は言うねん、その同志に。次、私が死ぬ番や、いつ死ぬかわからんけど。統一見られへんよ。6月15日の南北共同声明、統一半分できたと。言うてること間違うてるかな？ 思わへん？ そう思うて、ええやろ？ 統一できません、こんなんでは。政策を変えたら、ええと思ふねん。国民は悪うないよ、別に。政治家もそなに悪うないねん。何人かやろ、ええ生活やって、ええ目してるのは。その人らに変わって欲しいねん。

* 本研究は科学研究費補助金（課題番号18530396）の助成を受けたものである。

【用語解説】***11 在日本朝鮮人連盟（朝連）**

「朝総連」とは、おもに韓国で使用される在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連、1955年5月結成）の略称である。ところが高蘭姫さんが渡日した時期は、証言にしたがえば1948年の夏ごろであったと思われる。少なくとも船場に李徳九や金大珍が現れたというから、兩名が死去した1949年春より前の時期であることは疑いない。とすれば、高蘭姫さんが渡日直後に加入した団体とは、一般に言う「朝総連」ではなく、通常「朝連」と略称される在日本朝鮮人連盟であったと見られる。

朝連は解放直後の1945年10月に結成された在日朝鮮人運動の中核組織であり、新朝鮮建設、世界平和、在留同胞の生活安定、帰国同胞への便宜、日本国民との互譲友誼、大同団結の6項目を綱領として掲げていた。朝連は在日朝鮮人大衆の圧倒的支持を受けた統一戦線体であったが、主導権は社会主義者や解放前の労働運動の指導者が掌握しており、そのため日本共産党とも密接な関係をもっていた。また朝連の傘下団体としては、在日本朝鮮民主青年同盟（民青）や在日本朝鮮民主女性同盟（女同）などがあり、高蘭姫さんはこれらの団体で活動したものと考えられる。

朝連ではとくに民族教育事業に力を入れていたが、共産主義の勢力拡大を警戒するGHQと日本政府は次第にこれを危険視するようになり、1948年4月には民族学校の閉鎖を命じる当局に対して、朝連・民族学校関係者らが激しい抗議運動を展開した。また同年9月に朝鮮民主主義人民共和国が樹立されると、朝連はこれを支持する立場を明確にして集会などで共和国国旗を掲揚し、これを阻止しようとする警察と衝突する事件が各地で起こった。

結局、朝連と民青は1949年9月、GHQの指示を受けた日本政府が団体等規制令を適用して、強制的に解散させられたが、解放救援会、女同、学生同盟などは活動を続けた。これらの団体は、1950年6月に結成された在日朝鮮統一民主戦線（民戦）に参加している。

***12 西今里中学校（再掲、一部補足）**

日本の敗戦直後から全国各地に建設された朝鮮人学校は、幾度となくGHQや日本政府の弾圧を受けながらも、民族教育の維持、発展に努めていた。しかし1949年9月、日本政府は、在日朝鮮人運動の中心組織である在日本朝鮮人連盟を強制解散したうえで、同年10月には朝鮮人学校の閉鎖をもくろみ、朝鮮人子弟の義務教育を公立学校で行うなどの方針を閣議決定した。大阪府では49年11月に大多数の朝鮮人学校閉鎖が強行されたため、朝鮮人学校関係者は大阪市教育委員会に対して、公立の朝鮮人小・中学校設立を求める交渉を行った。その結果、50年7月1日に朝鮮人生徒だけが通学する、大阪市立本庄中学校西今

里分校が開校し、学校長には川村市兵衛（前・市立三陵中学校長）が就任した（開校当初の生徒は108名）。同校はのちに市立西今里中学校となり、唯一の大阪市立の朝鮮人中学校として、10年余にわたって日本人・朝鮮人教員による協同の教育活動が実践された。同校の教育事業は1961年9月に財団法人大阪朝鮮学園に移管されて、中大阪朝鮮初・中級学校と東大阪朝鮮中級学校に分離、改編されることになった。

ところで高蘭姫さんは、後出のように、西今里中学校に勤務していた文道平さんが「日本政府」から教員免許を受け、給料を支払われていたと証言しておられる。このうち「教員免許」について、西今里中学校では、学校長が大阪府教育委員会に申請し、府教委が教員の学歴などを検討して適当と認めた場合は、期限付き助教諭としての免許を交付していたとのことである。また当時、西今里中学校では、大阪市が採用した講師（本庄中から分離、独立した時点で5名）のほか学父母（保護者）採用の教員がおり、大阪市が講師に支払う給与は講師本人が直接受け取るのではなく、学父母がいったんとりまとめ、内規に応じて学父母採用教員を含む全教員に分配されたという。（以上は、梁永厚氏のご教示による。）

*13 李起杓^{イギビョ}

1911年に済州島の朝天邑（現在の済州市朝天面）新村里に生まれ、朝天公立普通学校を卒業したのち、18歳で大阪に渡り工場労働者として働いた。翌年帰郷し、1933年2月、済州島革命的農民組合の下部組織としてつくられた、金日準を責任者とする「新左革命的農民組合準備委員会」の新村里責任者となった。同年4月中旬には、農民組合組織の準備団体として新村里の青年5人とともに「日曜会」を結成し、その責任者となるとともに農民部を担当した。新聞や雑誌の輪読などの活動を行い、農民の意識化や少年夜学会の運営などを試みたが、1934年10月の全島的な青年活動家の検挙が行われた時に逮捕された。1937年4月、光州地方木浦支庁で治安維持法違反により懲役1年6月刑を宣告され服役し、釈放後は日本に渡った。解放後、大阪で活動した李起杓は、民戦大阪府委員会設立時の常任議長団の一員となった。朝鮮総連結成時には大阪から中央委員の一人に選出され、また朝鮮総連大阪府本部常任議長団の一員もつとめた。

*14 大村収容所

1950年10月、外務省の外局として出入国管理庁が発足し、その付属機関として長崎県東彼杵郡江上村に針尾入国者収容所が設置された。これは旧佐世保引揚援護局（1950年5月閉局）の針尾収容所を改組、継承したもので、同年12月には大村市の元海軍航空廠本館の跡地へ移転し、大村入国者収容所となった。1950年に955人を韓国に送還したのを皮切りに、1965年の日韓国交正常化までに計50回、1万5000人近くの送還を行った。1952年に法務省

入国管理局へ移管され、1993年には「大村入国管理センター」と名称を変えて、現在に至っている。

*15 契（頼母子講）のしくみ

ここでは日本風に「頼母子」と呼んでいるが、本来は「契」という朝鮮の伝統的な相互扶助組織として理解されるべきものである。契はとくに朝鮮王朝時代の後期から発達し、今日でも庶民にとっては最も身近で有効な融資の手段となっている。

契のしくみは経験したことのない者にとっては複雑であり、しかもさまざまなやり方があるようだ。ここでは高蘭姫さんのお話を整理してみたものを記しておく（別図参照）。

- ・各回の出資金を決めておく（1万円・3万円・5万円など）。
- ・最初に、親が全ての子からの出資金を受け取る。
- ・その後、各回に集まった金を受け取る（「下ろす」）メンバーを募る。
- ・「下ろした」メンバーは、その次の回からは1万円の「利子」を加えて出す。したがって3万円の頼母子の場合一度「下ろした」メンバーはその後、頼母子が終わるまで4万円ずつ出し続けなければならない。
- ・つまり、後になって「下ろす」ほうが、多くの「利子」が加わった金額を受け取ることができる。
- ・「下ろす」メンバーがない（空口）^{からくち}場合、親が代わりに預かり、その回の分の「利子」は発生しない。
- ・親は毎回1万円の「利子」を出す必要はなく（したがって3万円の頼母子の場合3万円だけ出せばよく）、逆に毎回集まった金のうちから1万円の「利子」を受け取る。

*16 朝銀

朝銀信用組合の略称。朝鮮総連系商工人によって運営された朝鮮信用組合協会（朝信協）傘下の金融機関。日本の金融機関から徹底した排斥を受けた戦後在日朝鮮人社会では独自の金融機関設立の必要性が叫ばれ、1952年設立の同和信用組合（朝銀東京の前身）を皮切りに、以後、都道府県ごとに信組が組織された。最盛期の1991年には38組合178店舗、預金総額は2兆3000億円に達した。韓国民団系の商銀信組とともに零細企業の多い在日ビジネスを支援して在日朝鮮人の経済生活向上に多大な役割を果たしたものの、一部で繰り返された不明朗な乱脈融資とバブル崩壊の影響から1990年代中期から急速に業績が悪化し、1997年以降、連鎖的に破綻が進行した。朝信協は2002年に解散し、各信組は統合再編を経て、現在系列7信組が存続している。

*17 호상^{ホサン}

一般に言う「호상^{ホサン}」とは「好喪」、すなわち長生きをして幸福な一生を終えた人の葬儀

のことである。だが済州では、死者を棺に入れる時に着せる服を「ホサンオッ」（호상옷 = ホサンの服）、「ホサン服」（호상복）と言うとの報告があり、また長生きで幸福に死んだ人に着せる死装束を、たんに「호상」と呼ぶともいう。

なお死者に着せる服は通常「寿衣^{スエイ}」といい、葬儀一般を取り仕切る人物を「護喪^{ホサン}」と言うこともあるが、済州ではこのほか、遺体を清め衣服を着せる作業、およびこれを行う人物をも「호상」と呼ぶとも言う（崔在錫『済州島の親族組織』一志社、1979年、304頁）。ただし、名称が「寿衣^{スエイ}」であれ「호상^{ホサン}」であれ、60歳を迎えた時につくることが理想とされていることには変わらない。

*18 高氏王位殿

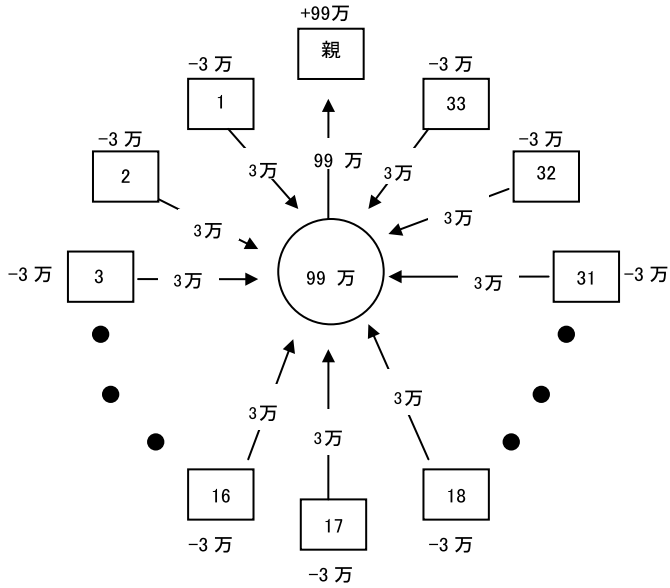
済州市我羅一洞の墓域一帯約5,300坪の敷地に建立された耽羅国高氏宗廟内の建物の一つ。高氏中央宗門会と高氏宗門会総本部が、祖先を祀り、「王家」の伝統を受け継ぐ事業として、済州道内外の高氏一族からの献金により2002年11月に起工し、2004年4月に竣工した。両団体によれば、済州島の神話で始祖神とされる高乙那・良乙那・夫乙那の三神のうち最も優勢だった高乙那が、4300年前に耽羅国を建国し、高氏が45代3275年間にわたって耽羅王国を統治したという。王位殿には、高乙那王から子堅王まで45位の耽羅国王の位牌が奉安されている。

*19 北朝鮮帰還運動（再掲）

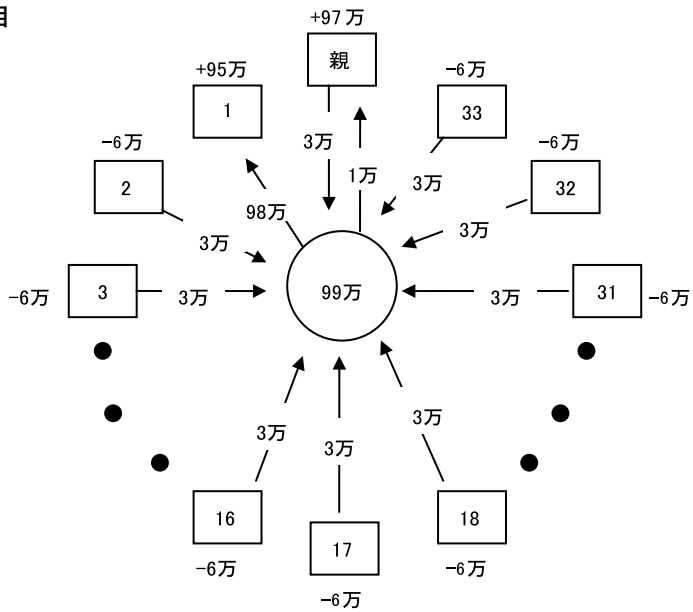
1955年9月、朝鮮民主主義人民共和国の金日成首相が在日朝鮮人の帰国希望者を受け入れる声明を発表し、創設間もない朝鮮総連もこれを契機に積極的に帰国運動を推進していくことになった。当初、非協力的であった日本政府は、59年2月に帰還を了解、韓国政府・民団側が強く反発する中で、同年8月、帰還事務を直接担当する日・朝の赤十字社間に協定が締結された。59年12月の第1次帰還船を皮切りに、84年までに約9万3000名が帰国したが、帰国者の8割以上は最初の3年間に集中している。

契（頼母子講）の概念図

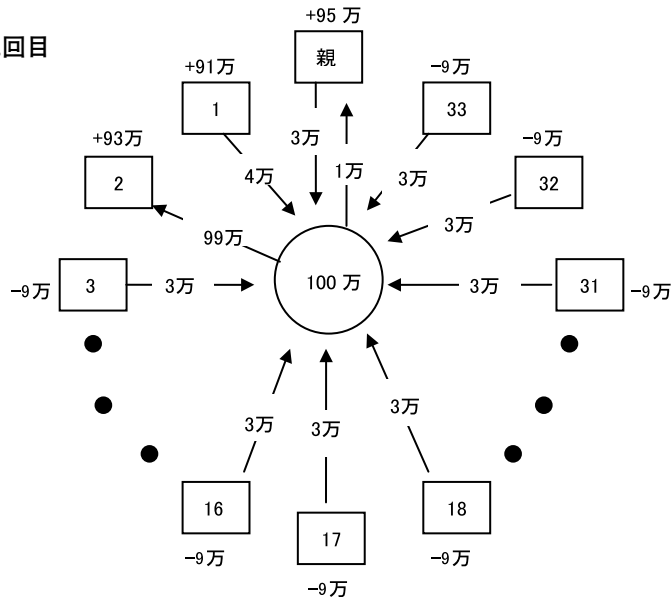
一回目



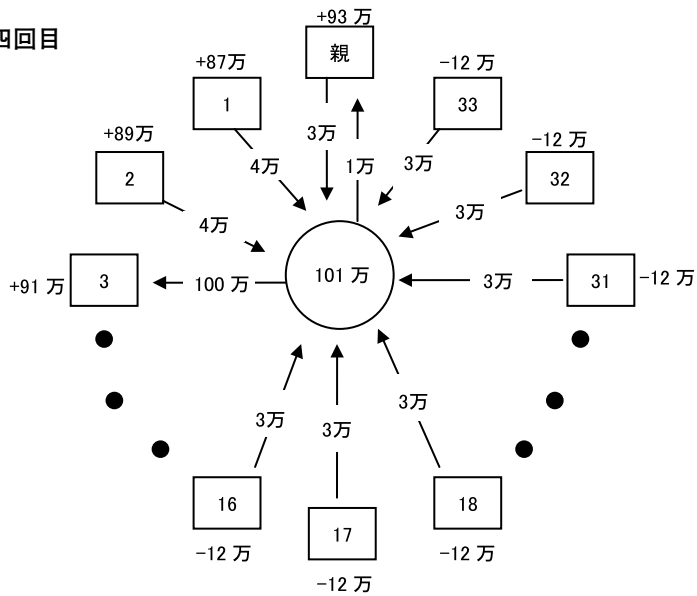
二回目



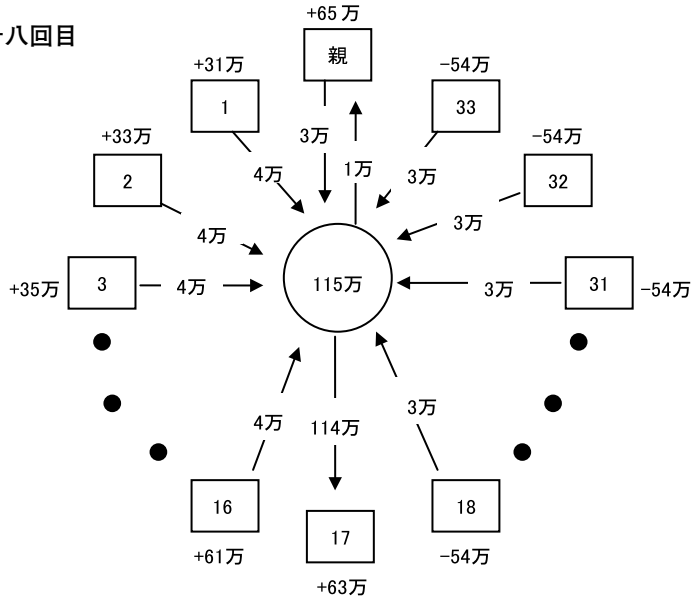
三回目



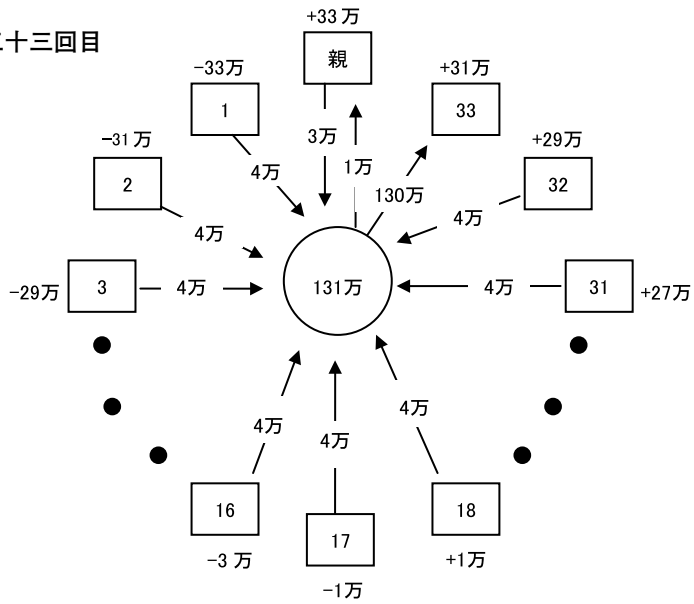
四回目



十八回目



三十三回目



お詫びと補足説明

私たちはこれまで本論集に「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査」と題するインタビューの記録を断続的に掲載してきた。ところが藤永ほか8名の名義による4回目の記録「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（4）——李健三さんへのインタビュー記録——」（上篇は人文科学編第112号〔2007年6月〕に、下篇は人文・社会科学編第1号〔2007年10月〕に掲載）について、読者の方から事実関係に重大な誤りがあり、また事実認識の面でも問題が多いとのご批判をいただいた。

まず明確にしておかなければならないのは、インタビューの内容を整理、編集したのは私たち編者であり、叙述内容に関する責任は、全面的に私たちにあるということである。証言者はあくまでも私たちの求めに応じて体験を語ってくださったのであり、編集の手が入っている以上、叙述に私たちの主観が反映されている可能性があることは否定できない。

ただ私たちの基本的な立場は、学術資料としての価値を優先し、できるだけ客観性に配慮しながら証言を再現しようというものであった。したがって、かりに証言の中に事実と異なっている部分や、私たちの歴史認識と相容れない部分、差別的言説と受け止められる部分があったとしても、そのような記憶や認識そのものが複雑で困難に満ちた歴史的事情を体現するものであるから、あえて修正はせず、注や用語解説などの手段で記述内容を補足する方針をとってきた。

とは言え、こうした立場や方法が誤った情報を広める結果になったならば、それは重大な過ちであり、その責は当然私たち編者にある。もとより私たちは、読者に誤りを伝えることなど望んではいない。ご批判を受けたインタビュー記録において、私たちは確かに事実関係の検証を怠った部分があり、また読者が誤解しないような配慮も不足していた。この点は率直に認め、ご迷惑をおかけした関係者の方々に深くお詫び申し上げたい。

ご批判をいただいたのは、おもに済州島4・3事件において武装隊総責（司令官）をつとめた李徳九に関わる記述についてである。私たちはこの機会に掲載した記録を読み直し、叙述の妥当性について討論した。その結果をもとに、ここではご指摘を受けた点を中心として、とくに読者を誤解させるおそれのある箇所への補足説明を行うことにする。

（1）武装隊のナンバー2の首がさらしものにされたという証言（上、115頁）について。

当時の状況を熟知しておられる李徳九のご遺族によれば、これは武装隊のナンバー2（金大珍）ではなく、済州島南部地方で活動していた地域的な部隊のリーダーのものということである。

(2) 李徳九に関する証言「うちの親父らはあそこは妾の筋や言うんですよ」「妾の子でしょ」(上, 116~117頁) などについて。

李徳九の生母が「妾」であったというのは、明白に誤りである。この点も、李徳九のご遺族の証言より確実である。

(3) 上記(2)に関連し、上篇115~117頁にかけては、李徳九を非難する発言が多く見られる。たとえば、「最終的に一人で見放されてますやんか」「顔はあばたやしね、妾の子でしょ。やっぱり、小さいときから相当抵抗あったん違います?」「みんな見返したろうと思っていたのに、もうちょっと当てが外れて。ひょっとしたら、そのときに北のほうから誘いがあって、乗ったん違いますかね。おまけに、トップ取れるもんやから」などである。読者はこのような記述から、4・3事件が李徳九の個人的な劣等感や功名心などによって引き起こされたという印象を受けるかもしれない。この点については、現在の研究水準に照らして、誤解のないよう補足説明を付すべきであった。

4・3事件は、決して李徳九の個人的な動機から引き起こされたものではない。南朝鮮労働党済州島委員会(済州島党)による武装蜂起の方針は、1948年2月から3月にかけて、幹部の合議によって決定されたものであり、こうした決定の場に李徳九が出席していたかどうかさえ、実は明らかではない。済州島党の蜂起の目的について、韓国の政府機関である「済州4・3事件真相糾明および犠牲者名誉回復委員会」が2003年にまとめた『済州4・3事件真相報告書』(以下『真相報告書』)では「一つは組織の守護と防御の手段として、いま一つは当面する単選・単政に反対する「救国闘争」として」(160頁)と結論づけている。すなわち警察や右翼青年団の白色テロから党組織を防衛し、また南北朝鮮の分断をもたらす南朝鮮単独選挙(1948年5月10日実施)に反対する目的で蜂起したというのが、今日の韓国での一般的な見解なのである。

そして1948年4月3日の最初の武装蜂起の時点で、済州島党軍事部の責任者=武装隊総責をつとめていたのは金達三という人物であった。武装隊のもとで遊撃隊第1連隊長をつとめていた李徳九が武装隊総責の職を引き継いだのは、金達三が済州島を脱出した48年8月以降のことである。

したがって済州島党による武装蜂起は、李徳九の独断で実行されたものではないし、ましてや李徳九の個人的な動機によって引き起こされたものでもないのである。

ただ私たちのこれまでのインタビューでも、金達三の名を知っている方は少なく、多くの済州島出身者にとっては、李徳九こそが武装隊のリーダーとして、またその象徴として記憶されている。なぜそうなのかについては、別途、慎重な考察を必要とするが、さしあ

たり一つの可能性として、軍・警察の掃討作戦が最も熾烈であった時期に総責の職にあり、また李健三さんの証言にもあるような遺体に対する見せしめ的な扱いが、済州島民に強い印象を残したのではないか、ということを描きおきたい。

李徳九や武装隊の蜂起に対する歴史的評価は、いまだ定まっていない。4・3事件で多数の民間人犠牲者が出たことから、武装隊の行動の無謀さを非難する声も確かに存在する。しかし被害者・遺族からの申告状況や駐韓米軍の報告は、4・3事件の犠牲者の80パーセント以上が、軍・警察側によって殺害されたものであったことを示している（『真相報告書』365, 368～373頁）。すなわち4・3事件における膨大な人的被害の責任を負うべき立場にあるのは、まず公権力の側なのである。そして実際、そのような観点から2003年10月、当時の盧武鉉大統領は遺族と済州道民に対して、国家権力の過ちを認め、お詫びの意を表明している。このことは、ここでとくに強調しておきたい事実である。

（4）「毎日戦車がうちの前の坂を上がっていくんですね」（下、38頁）などの証言について、4・3事件当時、済州島に「戦車」と呼べるようなものはなかったはずとのご指摘をいただいた。

この件については現在調査中であるが、いまのところ結論を得るに至っていない。証言者の李健三さんに確認したところ、あくまでも「戦車」ということであった。ただ済州島に戦車が持ち込まれたのは、朝鮮戦争開戦後という証言もある。

（5）李徳九の兄・李佐九に関する記述中の、済州島で生まれた息子が4・3事件のときに殺害され、日本で生まれた息子は高校生のとき亡くなったという証言（下、52～53頁）について、ご遺族の方から二人を混同しているところのご指摘をいただいた。すなわち済州島で生まれた息子は生きのびて日本に渡ってきており、高校生のときに亡くなったのはこの息子ということである。なお日本で生まれた息子は、現在もご健在とのことである。

（6）証言者の学歴に関する発言、たとえば農業中学校への入学年齢を「13歳くらい」とし（上、112頁）、また「中学3年卒業して。農校が、農業高校と一中に分かれて」と述べた部分（下、42頁）などは、私たちが付した用語解説「*12 済州農業中学校」（上、122頁）だけでは、事実関係が分かりにくいところがあると思われるので、補足しておきたい。

植民地期に設立された済州公立農業学校（解放当時4年制）は、1946年9月に6年制の済州公立農業中学校に改編されたが、1950年6月には再び4年制となって、校名も済州農業中学校と変更された。この4年制済州農業中学校の学則では、入学の条件を、①国民学

校6学年を卒業した者、②年齢満12歳以上で、本校で行う国民学校6学年卒業程度の検定試験に合格した者、としており（『済農八十年史』済州農業高等学校総同窓会、1990年、192頁）、この時期には満12歳に達していれば、農業中学校への入学が認められていたことが分かる。

そして1951年8月、済州農業中学校は6・3・3・4制への学制改定にともない、済州農業高等学校と済州第一中学校に分離、改編された。このとき旧農業中学校の1・2・3学年は済州第一中学校として分離し、4・5・6学年を済州農業高等学校に改編したのだが、両校は引き続き同じ敷地内に置かれた（『済州道誌』第3巻、済州道、1993年、115頁）。

したがって1937年生まれ証言者は、最短で満12歳であった年、すなわち早生まれなら1949年、遅生まれなら50年に農業中学校へ入学し、2年生または3年生在学中、学制改定で第一中学校の所属となって、同校卒業後（卒業直後であれば1952年か53年）に渡日したということになる。

なお証言者が仮名を使っておられることに対する疑問も寄せられている。この点は、一族のうち、証言者の一家だけが全員生きのび、他は家族に多数の犠牲者を出したことから、証言によって親戚の方々にご不快に思われないようにと、証言者が希望されたことである。事情をご理解いただければ幸いである。

私たちは、第1回目の報告（2000年）にあたって、調査の目的を次のように述べたことがある。

……4・3事件は、民衆虐殺の実態を糊塗しようとする韓国の歴代反共政権により、長く「共産主義者の暴動」と決めつけられてきたが、近年ようやく事件の真実が明らかにされつつあり、従来タブーとされてきた体験者の証言も、さまざまなメディアを通じて伝えられるようになった。

こうした郷里の悲劇が、在日の済州島出身者の人生に大きな影を落としていることは言うまでもないが、それは日本での生活体験とともに、まさしく東アジア現代史の矛盾の縮図とも言うべき事象である。このような意味で、在日の済州島出身者の歴史的体験は、後世に受け継がれるべき記憶として、ぜひとも記録にとどめておく必要があると考えたのである。

このような問題意識は、もちろん現在も変わるところがない。しかし調査活動の長期化にともない、ともすれば惰性に流れ、また4・3事件をとりまく環境も調査開始時に比べ

ると格段に好転したことから、調査結果の発表にあたって緊張感を欠いてしまったのではないかと猛烈に反省している。４・３事件の真相究明はいまだ途半ばであり、またきわめて敏感な問題をはらんでいるがゆえに、細心の注意をもって臨まなければならない研究課題であることを、改めて痛感している。

今回の失敗を糧とし、初心に戻って調査活動を継続したいと、一同決意を新たにしているところである。今後とも読者の厳しいご叱正をお願いしたい。

（藤永 壯）